

宮城大学大学院 看護学研究科 ニュースレター



着任あいさつ

基礎看護学・感染看護学教授 石原 美和

4月に着任した基礎看護学・感染看護学教授の石原美和です。宮城大学の前は、厚生労働省で看護技官として、22年間、様々な問題解決や制度改正等に携わっていました。東日本大震災時は、厚生労働省の東日本大震災対策本部医療班患者移送のリーダーの任にあり、地方厚生局、宮城県庁、自衛隊とともに、市町村支援に当たり、その後も他県からの保健師の派遣の調整を行いました。

看護学研究科では、博士課程前期の基礎看護学と感染看護学を担当しており、現在、3名が所属しています。講義は基礎看護学と感染看護学、そして、看護政策論を担当しています。

最近は、他大学から看護政策論の講義の依頼が増えており、看護専門領域において関連する政策について関心が高まってきています。看護政策論はCNSコースの必修科目にもなっており、今年度は11名が履修しました。学生がそれぞれの専門領域における課題を抽出して、解決に向け、制度を改善するシミュレーションを行いました。最終回では、実際の会議の場を想定したプレゼンテーションを行い、反対勢力グループからの反論に対する対応も行いました。白熱したやりとりもあり、授業終了後には、意見交換会でも大いに盛り上がりました。学生それぞれの専門領域が異なるため、新たな知識が得られた、視野が広がった等の感想もありました。自分が長年携わった厚生労働行政における制度の創設や見

直しのプロセスを、看護のリーダーとなる人材へ伝えることは、エキサイティングです。制度について、楽しく興味を持って学習していただけるよう、看護職に関連する内容を中心に、消費税や保険料、交付金等について解説しています。

感染看護学については、現在、CNSコースの38単位化に向けた申請準備を行っています。宮城県内では、感染管理認定看護師らのネットワーク活動が活発で、本学としても感染管理に従事する看護職のキャリアパスに合うように履修内容を検討したいと思っています。仙台には空港も港もあり、東北大学病院においては一類感染症病棟が整備中であることから、健康危機管理やグローバリゼーションへの対応を盛り込みたいと考えています。また、非常勤講師陣も厚く、東北大学医学部等から多くの先生方にご参画いただいております。今年度は、近隣の関連施設である基幹病院、保健所や検疫所、血液センター等での見学演習も予定しています。

本学着任とともに、今までの経験を活かして、院生の皆さんへの指導にあたることは大変ありがたい環境だと思っています。研究科は院生それぞれの専門性や進捗度に合わせた指導ができますので、話し合いながら進めることを重視したいと思いますし、他領域の先生方にも積極的に関わっていただきながら、客観的な視点も取り入れたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。



研究科の学生たちと



抗エイズウイルス薬AZTを開発した満屋裕明先生と
(アメリカ国立がん研究所内科療法部門レトロウイルス感染部部長、
国立国際医療研究センター臨床研究センター長)

成熟期看護分野 がん看護学領域の紹介 2017年

がん看護と一緒に探究し、がん患者とその家族に貢献しよう！

がんの罹患率増加、がん医療の進歩に伴い、がん看護に携わる看護師に対する社会のニーズは高まっています。そのため、あらゆる看護の場（がん専門病院、高度先進医療を提供する病院、地域の総合病院、クリニック、訪問看護ステーション等）で、がん患者とその家族への看護が実践されています。看護実践する中で、がん患者や家族の辛い様子に戸惑ったり、がんでも生き生き過ごす様子に驚いたりしたことがあるかと思います。それは、なぜ？何が影響しているのだろう？看護としてできることは何？を探究してみましょう。気づいたこと、わかったことを、どうしたら広く看護に活用できるかを、看護学を学ぶこと、研究すること、演習や実習を通して、一緒に考えてみませんか。是非大学院進学を考えてみてください。

がん看護学領域は、看護界でリーダーシップを担い新しいがん看護を開発する能力を養う「がん看護研究能力養成コース」と、臨床で高い実践能力を發揮して活動する「がん看護専門看護師養成コース」の2コースがあります。

「がん看護研究能力養成コース」は、1年前期で、がん患者の心身を理解し、看護上重要な課題は何かを探究するため、がん病態治療学、看護理論、看護倫理、がん看護援助論を履修します。同時に、看護研究を進める基盤の知識を獲得するため、看護研究法を学び、文献検討を通して、これまでの研究状況を整理します。1年後期から、自己の研究を進めるべくリサーチクエスチョンを明確にし、研究計画を立案します。2年生では、倫理審査を受けた後、研究データ取集・論文作成を行います。このプロセスを通して、看護研究の手法と、がん看護を深めていきます。

「がん看護専門看護師養成コース」は、がん患者の身体的、精神的变化を深く理解し、患者と家族を支える医療体制や社会支援を含めたアセスメント能力を高めます。さらに、専門看護師として活動するためのコンサルテー

ション論や、看護を探究するための研究力を高める看護研究法について、学びを深めます。1年前期で10科目程度履修し、その知識を活用しながら、1年後期から2年前期にかけて、合計約3ヶ月の実習で実践力を高めています。それらの授業・実習と並行して、研究計画立案・データ収集分析・論文作成を2年間に渡って行います。

どちらのコースも、修了までには大変なエネルギーを必要とします。2年間集中で学業に専念する学生、長期履修制度を活用して3年以上をかけて計画的に進める学生など、学び方は様々です。

在学中の学生は、ほとんどが社会人入学です。数年の臨床経験の中で抱いた疑問、研究課題を講義・研究・実習を通して解決し、看護を深めています。そして、当然、仕事、出産、育児、家庭との両立も必要です。仕事を持ちながらの学修は、学んだことをすぐに看護実践へ活かせ、臨床での疑問をすぐに仲間と共にデスカッションできる喜びもあります。専門性を高める学修のタイミングは人それぞれです。学びたいと思ったその時がチャンスです。まずは、受験の相談に足を運んでください（e-mail:sugawayo@myu.ac.jp 菅原よしえ）。

がん患者と家族の方々はあなたの看護力を待っています。

学生からのメッセージ

- 博士前期課程1年「大学院では、臨床経験とがん看護の学びが結びつき、常に新たな発見を実感することができます。がん看護の奥深さと研究することの価値を是非、一緒に共有しましょう。」
- 修了生「現在訪問看護の現場で働いています。まだまだ悩むことばかりですが、大学院で学んだことが大きな財産となっています。」
- 修了生「大学院でがん看護を探求する過程は、自分自身と向き合う時間もありました。そこで得られた専門的知識や技術は、今、看護実践の大きな力となっています。」



平成29年3月 修了祝い：修了生とその家族、在学生、指導教員と共に

老年健康看護学領域 科目等履修生体験記

科目等履修を経て大学院に進学した私の経験から

老年健康看護学領域博士課程前期1年 内海 都支子

看護学校を卒業し、いつかは大学に進学したいという思いを抱きながら病院で病棟看護師として勤務してきました。院外研修や学会に参加し自己研鑽に努めてきましたが、数時間や一日程度の研修による学習では体系的に学べていない不完全さを感じていました。さらに当番制でまわってくる看護研究は、強制であり苦痛でしかありませんでした。

2011年3月11日東日本大震災に遭い、やりたいと思ったことは後悔しないようにやり遂げようと思い通信制の大学に編入学しました。大学では看護学以外の科目を中心に受講し、生命倫理学や宗教学、免疫学、行動科学、心理学など人間を多角的に視ることの重要性を学びました。

私は看護学校を卒業した後病院に入職し、病棟勤務しか経験がありませんでした。井の中の蛙となり、偏った私のものさしで患者さんをみていたことに学修を通じて気付かされました。

私が勤務している病院は、地域密着型で老年期の患者さんがほとんどです。老年期の患者さんにより良い看護を提供したいと思い、組織的な教育が受けられる大学院への進学を考えるようになりました。しかし、大学院が具体的に何を学び、何を得るところなのかが全く分からませんでした。たまたま勤務先の病院で、宮城大学大学院看護学研究科ニュースレターを読み、科目等履修生と

して1年学んだあと専門看護師を目指して大学院に入学した方の記事を読みました。就業しながら科目等履修生として学んだと記事に書かれており、大学院のホームページを見ると宮城大学大学院はほとんどが社会人入学であること、長期履修を受けられることが記載っていました。

私は、育児・介護・仕事に加えて学業を両立させる必要があったので、大学院入学前に単位を修得したいと考えました。また、大学院は何を学び、何を得るところなのかを知るため、科目等履修生として前期に老年健康看護学特論と看護研究特論、後期に老年健康看護援助論Ⅰ・Ⅱを受講しました。大学院では、学び方を学びます。また、経験知を言語化し論理的にプレゼンテーションをすることが求められます。このように科目等履修を通して大学院での学びの特徴を知ったうえで、大学院への入学を検討できたのはメリットだったと考えています。

現在、私は大学院に入学し、長期履修を利用して老年健康看護学領域で学んでいます。勤務日程を調整し学習する環境を整えてくれる職場の上司や同僚、適当な家事と育児でも気にしない家族、苦労を分かち合える院生の仲間達、厳しくも温かい先生方に支えられ学習できることに感謝しています。



大学院で「看護学」を学びたい
とお考えの皆様へ

ご存知
ですか？

入学前に大学院の科目を履修し
単位を修得できる制度があります。

宮城大学大学院 看護学研究科 科目等履修生 を募集 します

科目等
履修生は
…

- 大学院看護学研究科の科目を履修し、単位を修得できます。
- 科目等履修生として単位を修得後に大学院看護学研究科に入学した場合、修得した単位を、修了要件単位として認める制度があります。
 - 大学院看護学研究科（博士前期課程）の修了要件単位数は30単位です。
 - 科目等履修生として修得した単位は、最大10単位まで修了要件単位として認められます。



将来、大学院で看護学を学びたいとお考えの方は、入学前に単位を修得しておくと、入学後に余裕をもった履修計画をたてることができます。

平成30年度前期 科目等履修生出願期間

平成30年2月13日(火)～2月23日(金)(予定)

[入学資格審査申請受付:平成30年1月19日～26日](予定)

履修できる科目や出願資格等の詳細は、「平成30年度科目等履修生募集要項」をご覧ください。

募集要項は宮城大学のウェブサイトからダウンロードできます。

(TOPページ→「一般・地域の方へ」→「科目等履修生」→「大学院」→「シラバス」をご覧ください。)

http://www.myu.ac.jp/



公立大学法人
宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

お問い合わせ先
宮城大学事務部学務課
TEL 022-377-8333
E-mail : nyushi@myu.ac.jp

編集後記

通算12号の看護学研究科ニュースレターを送ります。冒頭には今年度4月から着任された石原先生のご着任あいさつの記事を掲載しました。そして、研究科の分野・領域紹介ではがん看護分野の菅原先生より記事をいただきました。石原先生は基礎看護学・感染看護学分野にてその専門性を発揮しております。記事を読んでもしご興味をもたれた方は、是非先生方にコンタクトをとってみてください。続いて、現在大学院生である内海さんより、科目等履修生の経験について記事を書いていただきました。急に大学院に進学するのは敷居が高いとお考えの方は、この制度を利用して、大学院の雰囲気を感じていただければと思います。平成30年度前期の科目等履修生の出願受付が、平成30年2月に予定されています。その案内も掲載しておりますので、ご興味のある方は是非この機会にご検討ください。

広報委員 出貝裕子、竹内文生、石原美和、木村三香、萩原 潤

宮城大学大学院看護学研究科ニュースレター

第12号

発行人 吉田 俊子

発行日 2017年12月14日

発行 宮城大学大学院看護学研究科広報委員会

〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1

T E L : 022-377-8240

F A X : 022-377-8290

E-mail : receipt_3@myu.ac.jp

W e b : http://www.myu.ac.jp/

印刷所 遠山青葉印刷株式会社

〒980-0801 仙台市青葉区木町通二丁目5-24